

平成 27 年 春の企画展 3月3日(火)～5月 31 日(日)

# 一刻も早く！

～戦場からの患者搬送～

## はじめに

---

戦地では、多くの兵士が傷病に倒れています。

本格的な治療を受けるまでの時間が、生死を分けることとなります。そのため、患者搬送手段は時代とともに変化してきました。

戦地の包帯所では、衛生兵が初期治療を施します。重傷者は、さらに担架によって野戦病院に運ばれ、軍医による診察と必要な手術などが行われます。症状の安定を待って、患者自動車（現在の救急車）で、後方の兵站（へいたん）病院に移送されます。長距離の移動に耐えられる体力が回復すると、病院列車などで病院船の待つ港に向かいます。

こうした後送システムが完成したのは昭和期になってからです。患者搬送のために考案された様々な装備ですが、実際に運用されている数が少ないことや、第一線救護の現場まで写真報道班が進出できなかったこと、重症患者の多くが意識を失っていて証言が得られないことなどによって、残された情報はごく僅かです。

今回の企画展では、戦地で運用された多様な患者搬送を、貴重な写真資料で紹介します。時間との闘いが戦傷病者のその後にどのような影響を与えたのか、その労苦を偲びます。

---



ようやく兵站病院にたどり着いた九四式患者自動車

## 1 患者集合点 （第一線救護）

受傷直後の救急処置は、負傷者自らが、圧迫止血帯や三角巾などで行います。



日露戦争時の満洲における臨時包帯所の情景

---

## 2 包帯所 （戦線からの離脱）

包帯所では衛生兵による初期治療が施されます。重傷者は前線から野戦病院に後送されます。



包帯所における第一線救護の訓練風景

---

### 3 野戦病院（本格的な治療）

野戦病院はテントを利用した移動病院で、軍医による本格的な手術、処置が行われます。



野戦病院（移動病院）の手術用天幕

---

### 4 <sup>へいたん</sup>兵站病院（戦場からの後送）

患者自動車や自動貨車（トラック）で、戦地を離れた兵站病院で体力の回復を図ります。



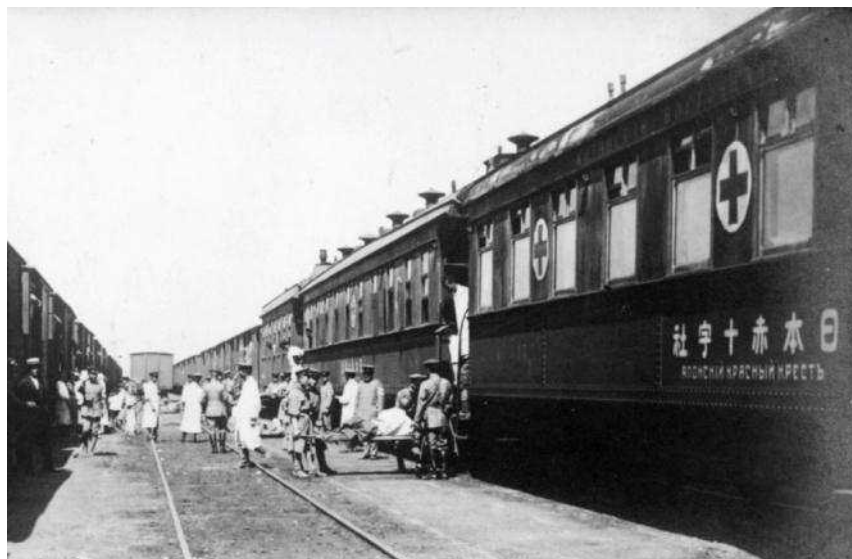
兵站病院に収容された戦傷病者たち

---

## 5 転地（帰国準備）

長距離の移動に耐えられるように体力を蓄え、病院船の待つ港に向かいます。

移動には、患者自動車(救急車)、自動貨車(トラック)、病院列車などが使用されました。長距離の移動に耐えられない場合は、患者飛行機や輸送機などを運行した例もあります。



兵站病院からの病院列車による搬送



患者飛行機による戦傷病者の搬送

---

## 6 故郷へ（家族の元へ）

病院船に乗り込み、家族の待つ故郷に向かいます。港には、帰還を待ちわびる人々が。



病院船による内地への帰還



懐かしい故郷に、やっとたどり着きました

## 平成27年 春の企画展 「一刻も早く！」～戦場からの患者搬送～

- 主催：しょうけい館（戦傷病者史料館）  
会期：平成27（2015）年3月3日（火）～5月31日（日）  
会場：しょうけい館1階  
入場料：無料  
開館時間：10：00～17：30（入館は17：00まで）  
休館日：毎週月曜日（祝日は開館、翌日休館）、5月7日（木）  
内覧会：3月3日（火）10：00～12：00  
講演会：元防衛省医官 尾立 貴志 氏 「戦場での患者搬送」  
5月9日（土）10：30～11：30、13：30～14：30  
（要事前予約：ホームページにて告知予定）  
関連イベント：学芸員による展示解説 第1、3、5週土曜日14：00より 約30分程度、申込不要

所在地：〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下

### （交通案内）

#### ●地下鉄の場合

「九段下」駅6番出口から徒歩1分  
（東西線、半蔵門線、都営新宿線）

#### ●都営バスの場合

「九段下」停留所から徒歩1分  
（高71系統 九段下～高田馬場駅）

\*駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

\*車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。



問い合わせ先：（電話）03-3234-7821（FAX）03-3234-7826（担当）学芸課 木村  
ホームページ：<http://www.shokeikan.go.jp>